

女性のミニコミにみる「女性問題」の変遷

— テキストマイニングの社会的利用 2 —

首都大学東京大学院 樋熊亜衣

1. 目的

本研究はテキストマイニングという計量的な分析手法を使用し、1950年から2009年までの日本の女性運動がどのような「女性問題」に関心を抱いてきたのか、その動向を把握することを目的としている。第二波フェミニズムと呼ばれる女性解放の波が起きてからすでに50年近い年月が経とうとしている。それにも関わらず、“女性の状況は良くなったのか”“フェミニズムは何をしてきたのか”ということが繰り返し問われてきた。特に、80年代以降の女性運動の動向は不明瞭であり、女性運動の歴史的な動向を知るための研究が必要である(樋熊2012)。そこで、女性運動の歴史を描く試みの一つとして、女性運動団体の発行する定期刊行物(ミニコミ誌)の記事タイトルの分析を行う。

2. 分析対象・方法

本研究では、ミニコミ誌の記事タイトルで使用される語句の出現率を割り出し、これまで女性運動がどのような問題に取り組んできたのかを辿りたい。対象とするミニコミ誌は、①女性の団体についてまとめている『女の便利帳』第一巻巻末にある「刊行物」一覧に掲載されているもの(267誌)、②『ミニコミ総目録』の女性問題の欄に掲載されているもの(97誌)、③「WAN (women's action network) ミニコミ電子図書館」「国立女性教育会館リポジトリ」といったウェブ上で公開されているもの(2016年6月18日時点で72誌と46誌)のなかから、重複するものや行政発行のものを避けるなどして、122誌を選定した。各ミニコミから記事タイトルを抽出し、3年区切りで語句の出現率を示した。今回の分析ではIBM/SPSS社製ソフトText Analytics 4.0.1を使用した。

3. 結果

語句の出現率の推移から、①一時的に出現するもの、②常時関心を持たれてきたもの、③新しく出現したもの、④途中で減少していくもの、があることが明らかになった。例えば、①72年-74年の時期に「リブ」、72-74年の時期と81-83年の時期に「優生保護法」という語句は高い出現率を示しているがそれ以外の時期には登場しない。②「働く」という語は1950年から2009年まで、多少出現率に上下があるものの、高めの出現率を保っている。③90-92年の時期に「暴力」「性暴力」という語句が登場し、以降2009年にかけて出現率は上昇している。④「婦人」「主婦」「解放」などは、90年に入るころから出現率はかなり低くなり、90年代後半にはほぼ使用されていない。

本研究ではミニコミ誌の分析から、女性運動に取り組んできた「女性問題」の歴史的変遷を概観した。個別の問題に対してどのような活動が行われてきたのかといったより子細な動向に関する研究は今後の課題としたい。

参考文献

- 樋熊亜衣, 2012, 『「リブ神話」を超えて——現代日本女性解放運動史全体像構築の必要性』『ソシオロギス』36, 99-110.
- 女性の情報をひろげるジョジョ企画, 1996, 『女たちの便利帳1』教育史料出版会.
- 住民図書館編, 1992, 『ミニコミ総目録』平凡社.